

(別紙 6)

秋田県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る評価報告 (R7 当初)

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

本県においては、年間を通してニホンジカやイノシシに捕獲圧をかけていくためには、有害鳥獣捕獲におけるくくりわなによる捕獲従事者を増やす必要があるが、本県においては、長年当該獣が生息していなかったことから、技術を持った者が少ない。このため、くくりわなに関する技術の普及と取り組む者の増加を図る必要がある。

また、認定鳥獣捕獲等事業者については、ALSOK 秋田株式会社がわな猟で認定を受けているが、指定管理鳥獣捕獲等事業では銃猟による捕獲が主となることから、認定捕獲等事業者に準ずる団体として(一社)秋田県猟友会に委託している。

しかしながら、(一社)秋田県猟友会の会員は高齢化が進んでおり、指定管理鳥獣捕獲等事業の担い手となる会員の確保と技術の向上が課題となっている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	①くくりわな捕獲技術講習会 令和7年5月～9月 ②若手ハンター育成研修 令和7年9月～10月
場所	①県内3地区 ②田沢湖射撃場(秋田県仙北市)
目的	①個体数の増加と生息域の拡大を抑制するため、年間を通じた捕獲圧をかけることを目的として捕獲に関する技術向上を図る。 ②指定管理鳥獣捕獲等事業への従事者の増加を図る。
対象者・講師 (人数も記載)	①対象者：くくりわな未経験や経験の浅い鳥獣被害対策実施隊員等 講師：県内においてくくりわなによる捕獲を実践している者 参加者：のべ78名 ②対象者：経験の浅い猟友会会員 講師：スラッグ弾の取扱や大型獣の解体に習熟した者 参加者：27名
内容	①くりわなの基礎から架設までの実践講習 ②スラッグ弾の取扱や実射に係る講習及び大型獣の解体講習
方法	①直営により実施 ②委託により実施
評価方法	①くくりわなによるニホンジカ、イノシシの捕獲頭数により評価する。 ②指定管理鳥獣捕獲等事業の従事者数により評価する。
事業費	①261千円 ②1,180千円
備考	

注1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

注2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

①くくりわな捕獲技術講習会

令和2年度から当該講習会を開催しており、くくりわなに取り組む者が増加し、くくりわなによる捕獲数が伸びている。

【くくりわなによる捕獲数】

R7 シカ 35 頭、イノシシ 235 頭

R6 シカ 46 頭、イノシシ 172 頭

課題としては、捕獲頭数の伸びと比例して錯誤捕獲の発生リスクも高くなっており、今後、錯誤捕獲防止対策についての講習実施や普及啓発を図り、従事者の安全確保も進めていく必要がある。

②若手ハンター育成講習会

R7 年度の指定管理鳥獣捕獲等事業の従事者は 323 名（のべ 32 地区）で、R6 年度の 276 名（のべ 26 地区）から増加し、従事者の確保を図ることができている。

また、講習参加者の満足度は高く、継続した開催要望が出されている。

課題としては、射撃練習は射場の関係から 1 人ずつしか行えないため、大人数での対応が難しいこと、大型獣の解体には事前に研修材料の確保と保管が必要なことが挙げられる。今後も受託者である（一社）秋田県猟友会と調整しながら実施方法等について検討を重ねていく。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。